

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2009～2012

課題番号：21242032

研究課題名（和文） 現代日本の人口減少問題に対する外国人定住化の貢献に関する研究

研究課題名（英文） Contribution of Japan's international migrants in times of population decline

研究代表者

石川 義孝（ISHIKAWA YOSHITAKA）

京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：30115787

研究成果の概要（和文）：わが国在住の外国人による人口減少国日本への具体的貢献の方法や程度は、彼らの国籍、在留資格などに応じて多様であるうえ、国内での地域差も大きい。しかも、外国人は多岐にわたる職業に従事しており、現代日本に対する彼らの貢献は必ずしも顕著とは言えない。また、外国人女性や国際結婚カップル女性による出生率は、日本人女性の出生率と同程度か、より低い水準にある。一部の地方自治体による地道な支援施策が注目される一方、国による社会統合策は不十分であり前進が望まれる。

研究成果の概要（英文）：The type and degree of contributions made by foreigners in Japan, a country that has started to show population decline, vary with their nationality and status-of-residence, and regional differences in this regard are not small. Since foreigners are engaged in a variety of occupations, such contributions in contemporary Japan are not necessarily conspicuous. The fertility of foreign women and women within international marriages is nearly equal to, or even lower than, that of Japanese women. The adoption of reliable support measures for foreigners by some of the local municipalities deserves our attention, while the social integration policies of the national government are insufficient and should be improved.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	10,700,000	3,210,000	13,910,000
2010年度	8,800,000	2,640,000	11,440,000
2011年度	9,300,000	2,790,000	12,090,000
2012年度	6,500,000	1,950,000	8,450,000
総計	35,300,000	10,590,000	45,890,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学、人文地理学

キーワード：外国人、人口減少、定住、地図、GIS、個票データ、職業達成、社会的統合

1. 研究開始当初の背景

わが国の総人口は、2009年から減少に転じた。1970年代中期から出生率の低下が進行し、長期間にわたって置換水準を大きく割り込んでいるからである。国立社会保障・人口問題研究所による長期の人口推計によれば、今後の人口減少は、年ごとに厳しさを増し、2050年までに総人口が1億人を切る、と予想されている。これを受け、近年のわが国では、人口減少をキーワードに掲げる研究や著作の刊行が相次いでいる。とりわけ、人口減少が労働力不足となってあらわれるという論調が目立つ一方、日本国内の地域差に周回の注意を払う既往研究は少なかった。

日本への外国人流入は、1980年代後半のバブル経済期に活発化した。景気が後退局面にはいった1990年代初頭以降も、この流入がやむことはなく、外国人の定住化が進んでいる。これを受け、1990年代中期から社会学者を中心に、居住・生活・教育・医療など、定住の諸側面に関する研究が開始されるようになり、今日までに多くの成果がある。しかし、こうした既存研究は、社会学的視角から進められることが多く、特定の対象地域における面接やアンケート調査を踏まえた、小規模サンプルによる研究がほとんどであり、日本国内の地域差を念頭に置くという地理学的視角が欠落していた。

他方、地理学分野におけるわが国在留外国人に関する研究は、分布や移動あるいは就労に力点を置くものが多く、人口減という問題に対する外国人の貢献に焦点を置いた成果は、きわめて乏しかった。こうした問題点のために、定住外国人に関する既往研究は、大きな地域差を示しつつ現前に横たわっている人口減少問題の解決ないしは軽減に、いかに貢献するか、という課題に対し、ほとんど

役だっていなかった。本計画は、多様な地域差をもちつつ展開している人口減少問題に対し、外国人定住化がいかに貢献しているかを具体的に解明し、さらにその成果を政策提言にいかすことをめざした。

2. 研究の目的

(1)第一は、日本在留外国人に関する地図帳の作成である。外国人に関する主要統計資料としては、国勢調査、在留外国人統計、出入国管理統計年報、人口動態統計、などがある。しかし、これらの諸統計におけるデータ表章のしかたや得られる空間的スケール、さらに、デジタル・データの入手の可能性が、それぞれ異なっているため、わが国在留外国人に関する全体的な俯瞰が、必ずしも簡単ではなかった。しかし、本計画では、これらの諸統計に記載されている外国人関係のデータを、都道府県別、市区町村別、さらに町丁・字等別といった異なる空間スケールごとに統合するデータベースを作成する。それを地理情報システム(GIS)を用いて、一連の地図化作業を進める。こうして明らかになった成果をまとめた『在留外国人地図帳』(仮題)を刊行する。

(2)第二の目的は、外国人定住に関する周到な文献レビューと、それを踏まえた面接およびアンケート調査を通じて、どのような条件が外国人の転入や出生を促し、どのような条件が転出を抑えるのか、を明らかにすることである。具体的に焦点をあてるのは、住居・教育・配偶関係などの実情や、省庁・地方自治体やNPO/NGOによる外国人支援策である。こうした考察を通じて、外国人の定住が順調に進行しているのか否かを検討し、現代日本における人口減少という重要な問題に対する貢献を検討する。

3. 研究の方法

- (1)地図帳の作成：国勢調査、在留外国人統計、人口動態統計などの公的統計に掲載されている外国人関連データを用いて、わが国在住外国人に関する地図帳を刊行する。
- (2)定住外国人の調査：ブラジル、フィリピン、トルコをはじめとする諸国籍の外国人の日本における定住の現状に関する調査を通じ、定住化をめぐる問題点を明らかにする。
- (3)外国人の出生力の分析：低出生率が継続している日本への貢献を検討するため、外国人女性の出生力の分析を進め、日本人女性との比較を行う。
- (4)外国人子弟の教育の調査：日本における社会上昇の重要な条件となる外国人子弟の教育の現状と問題点を明らかにする。
- (5)外国人の社会移動の分析：日本社会における定住の重要な関心事となる、外国人の社会移動、具体的にはホワイトカラーへの達成状況に関し、国勢調査の個票データを用いた分析を行う。
- (6)外国人支援策の調査：定住化しつつある外国人を対象として、政府や地方自治体、および民間団体や NGO による支援策の調査を進める。
- (7)帰化人口の分析：定住化の重要な帰結の一つである帰化に注目し、官報を主な資料として、データが入手可能な長期間にわたる分析を実施する。

4. 研究成果

研究成果は多岐にわたるが、主な点としては以下の成果を指摘できる。

- (1)日本における外国人の定住の現状に関する調査や分析を通じ、定住化の現状と問題点を多面的に明らかにした。彼らの国籍によって事情は大きく異なるが、例えば、ブラジル

人に関しては、2008年以降の不況に対する脆弱性や子供の教育問題が、トルコ人に関しては、イスラム教という宗教的基盤に基づくアイデンティティの確保が、それぞれ、定住のための重要な課題になっている。

- (2)外国人女性の出生力は日本人女性より、概して低い。外国人女性の出生率上昇には、外国人に対する社会的統合や入国管理をめぐる政策や、出産・育児に対する政策の転換が必要である。

- (3)外国人の子供の教育は、日本における社会階層の上昇の重要な条件であるにもかかわらず、不十分であり、地元の自治体の支援を受けているケースが少なくない。外国人の社会移動、とりわけ管理職や専門技術職への職業達成は、彼らの国籍ごとに違いが見られるとともに、教育水準とも深く関係している。

- (4)近年徐々に前進してきたとはいえ、わが国政府による外国人の社会的統合に関する政策は、十分とはいえず、それが外国人定住をめぐる大きな問題点となっている。この不備を補うべく、地方自治体や市民活動グループが独自に、各種の地道な支援を継続していることは、高く評価される。

- (5)2009～2012年度の期間全体にわたる研究成果の詳細は、現在刊行準備を進めている、英文図書“*Contribution of Japan's International Migrants in Times of Population Decline*”（仮題）で、明らかにする予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 17 件）

- ① 是川 夕 2013. 日本における外国人の移住過程がその出生率に及ぼす影響について. 社会学評論. 印刷中. 査読有
- ② Takenoshita, H. 2013. Labour market

- flexibilisation and the disadvantages of immigrant employment: Japanese-Brazilian immigrants in Japan. *Journal of Ethnic and Migration Studies* 39. Doi: 10.1080/1369183X.2013.778140. 査読有
- ③ 石川義孝 2012. 外国人の国内人口移動. 統計 63(4): 10-15. 査読無
- ④ Ishikawa, Y. 2012. Displaced human mobility due to March 11 disaster, The 2011 East Japan Earthquake Bulletin of the Tohoku Geographical Association. <http://tohokugeo.jp/disaster/articles/e-contents29.pdf>. 査読無
- ⑤ Nishihara, J., Ishikawa, Y., Hiratsuka, H. and Kawasaki, Y. 2012. Current conditions and geographical background factors of international marriages: A case study of Japan's Tokai Region. *Geographical Review of Japan* 85(2): 57-73. 査読有
- ⑥ Park, S. H., Binh, P. and Kamiya, H. 2012. The cognition of Vietnamese marriage migrants on the economic condition change before and after marriage. *Journal of the Korean Association of Regional Geographers* 18(3): 268-282. 査読有
- ⑦ 高畑 幸 2012. 大都市の繁華街と移民女性—名古屋市中区栄東地区のフィリピンコミュニティは何を変えたか—. 社会学評論 62(4): 504-520. 査読有
- ⑧ Ishikawa, Y. 2011. Impact of the economic crisis on human mobility in Japan: A preliminary note. *Belgian Journal of Geography* 2011 (3-4): 129-147. 査読有
- ⑨ Liaw, K.-L. and Ishikawa, Y. 2011. Characteristics of Japan-born Japanese in the United States: Students, non-students, and recent brides of non-Japan-born American citizens. *Jimbun-chiri (Japanese Journal of Human Geography)* 63(3): 483-506. 査読有
- ⑩ 石川義孝 2011. 外国人流入は地方圏を救うか?、統計 62(1): 2-6 頁。査読無
- ⑪ 高畑 幸 2011. 外国人ケア労働者をケアするのは誰か—経済連携協定により受け入れたフィリピン人介護士候補者をめぐって—. 社会分析 38: 43-60. 査読有
- ⑫ Ishikawa, Y. 2010. Role of matchmaking agencies for international marriage in contemporary Japan. *Geographical Review of Japan Series B* 83 (1): 1-14. 査読有
- ⑬ Liaw, K.-L., Ochiai, E. and Ishikawa, Y. 2010. Feminization of immigration in Japan: Marital and job opportunities. in W.-S. Yang and M. C.-W. Lu eds. *Asian cross-border marriage migration: Demographic patterns and social issues*, 49-86. Amsterdam University Press. 査読無
- ⑭ Takeshita, S. 2010. The passing CCKs in Japan: Analysis on families of cross-border marriages between Japanese and Brazilian. *Journal of Comparative Family Studies* 41(3): 269-387. 査読有
- ⑮ 山内昌和 2010. 近年の日本における外国人女性の出生数と出生率. 人口問題研究 66(4): 41-59 頁。査読有
- ⑯ Ishikawa, Y. and Liaw, K.-L. 2009. The 1995-2000 interprefectural migration of foreign residents of Japan: Salient features and multivariate explanation. *Population, Space and Place* 15(5): 401-428. 査読有
- ⑰ Ishikawa, Y. 2009. Introduction to the special issue "Changing geographies of human mobility on urban and national scales". *Geographical Review of Japan Series B* 81 (1): 1-3. 査読有
- [学会発表] (計 15 件)
- ① 石川義孝 2013. 日本在住外国人の地図帳作成の意義. 日本地理学会、立正大学、3月30日。
- ② 杜 国慶 2013. 日本における帰化人口の分布と変化. 日本地理学会、立正大学、3月30日。

- ③ Korekawa, Y. 2013. The diverging destinies? Assessing skill portability of foreign workers in Japan. The 3rd Roundtable on Labor Migration: Assessing Labor Market Requirements for Foreign Workers and Policies for Regional Skills Mobility. Hotel Pullman Bangkok King Power, Bangkok, Thailand, January 24.
- ④ Ishikawa, Y. 2012. Importance of mapping foreign residents in Japan. Workshop on Community-based GIS, Academia Sinica, Taipei, November 26.
- ⑤ Hanaoka, K. and Takeshita, S. 2012. Fertility rates and the background conditions of cross-border marriage couples in Japan: An analysis using census microdata samples. Annual Conference 2012, British Society for Population Studies, University of Nottingham, UK, September 10.
- ⑥ Ishikawa, Y. 2012. Mapping foreign residents in Japan: Its importance and an introduction of maps, International Geographical Congress, University of Cologne, Cologne, Germany, August 29.
- ⑦ 片岡博美 2012. 経済・社会階層上昇手段としての「エスニック・ビジネス」?、日本地理学会、首都大学東京、3月29日。
- ⑧ 石川義孝 2012. 京都国際地理学会議の目的とテーマ。日本地理学会、首都大学東京、3月27日。
- ⑨ Takenoshita, H. and Tamaki, E. 2012. Socioeconomic integration, transnationalism and psychological well-being among Brazilian immigrants in Japan. International Sociological Association, Tel Aviv University, Israel, January 8.
- ⑩ Ishikawa, Y. 2011. Mapping foreign residents in Japan. International Geographical Union Santiago Regional Conference, the Military School, Santiago, Chile, November 17.
- ⑪ Ishikawa, Y. 2011. Displaced human mobility in Japan due to the earthquake/tsunami and the nuclear

plant crisis. Rome Meeting organized by IGU Commission on Global Change and Human Mobility, Rome Sapienza University, Rome, Italy, September 23.

- ⑫ 石川義孝 2011. 地図でみる日本の外国人—現状と課題—. 人文地理学会都市圏研究部会、キャンパスプラザ 京都、1月22日。
- ⑬ Ishikawa, Y. 2010. Recent in-migration to peripheral regions of Japan in the context of incipient national population decline. International Geographical Union Tel Aviv Regional Conference, Dan Panorama Hotel, Tel Aviv, Israel, July 13.
- ⑭ Ishikawa, Y. 2010. Impact of economic crisis on human mobility in Japan. Haifa Meeting organized by IGU Commission on Global Change and Human Mobility, University of Haifa, Haifa, Israel, July 11.
- ⑮ 石川義孝 2010. 公的統計における個票データ使用の意義—外国人移動研究の事例—. 日本地理学会、法政大学、3月28日。

〔図書〕 (計2件)

- ① 石川義孝編 2011. 『地図でみる日本の外国人』ナカニシヤ出版、73
- ② 石川義孝・井上孝・田原裕子編 2011. 『地域と人口からみる日本の姿』古今書院、134

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石川 義孝 (ISHIKAWA YOSHITAKA)
京都大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：3115787

(2) 研究分担者

宮澤 仁 (MIYAZAWA HITOSHI)
お茶の水女子大学・人間文化創成科学研究科・准教授
研究者番号：10312547

竹ノ下 弘久 (TAKENOSHITA HIROHISA)
上智大学・総合人間科学部・准教授
研究者番号：10402231

中谷 友樹 (NAKAYA TOMOKI)
立命館大学・文学部・教授
研究者番号：20298722

西原 純 (NISHIHARA JUN)
静岡大学・情報学部・教授
研究者番号：30136626

千葉 立也 (CHIBA TATSUYA)
都留文科大学・文学部・教授
研究者番号：40163737

神谷 浩夫 (KAMIYA HIROO)
金沢大学・人間科学系・教授
研究者番号：40192546

杜 国慶 (DU GUOQUING)
立教大学・観光学部・教授
研究者番号：40350300

山本 健兒 (YAMAMOTO KENJI)
九州大学・経済学研究院・教授
研究者番号：50136355

高畑 幸 (TAKAHATA SACHI)
静岡県立大学・国際関係学部・准教授
研究者番号：50382007

竹下 修子 (TAKESHITA SHUKO)
愛知学院大学・文学部・教授
研究者番号：60454360

片岡 博美 (KATAOKA HIROMI)
近畿大学・経済学部・准教授
研究者番号：70432226

花岡 和聖 (HANAOKA KAZUMASA)
東北大学・災害科学国際研究所・助教
研究者番号：90454511

是川 夕 (KOREKAWA YU)
国立社会保障・人口問題研究所・人口動向
研究部・研究員
研究者番号：40603626

(3)連携研究者

山内 昌和 (YAMAUCHI MASAKAZU)
国立社会保障・人口問題研究所・人口構造
研究部・第1室長
研究者番号：90415828